

令和5年度学校評価報告書

令和6年3月22日

北海道教育委員会教育長 様

北海道伊達開来高等学校長 藤 村 学 印

次のとおり令和5年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> (1) 探究的な学習活動の実践 (2) 安全に安心して活動できる教育環境の整備 (3) 地域の期待に応える社会に開かれた教育活動の展開 |
|---|

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
教育課程・学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・探究的な学習活動を推進するために、地域の企業や団体、大学や専門学校と連携し、講演等を行った。 ・生徒の学力の向上のために授業改善及び観点別評価をさらに効果的に推進していく。 	○家庭学習について、生徒の意欲が向上するような有効手段を一層推進するなどのご助言をいただいた。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・外部教育力をより充実させ、シラバスを活用し教科横断的な活動を推進する。 ・生徒が主体的に考え活動する授業について引き続き研修を行う。 	
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導に関する指導について、各年次ごとにばらつきがあった。 ・教育相談課を主体に、生徒の状況把握に努めた。 	○長期欠席の生徒については、担任だけでなく、組織的な対応をする等のご助言をいただいた。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導ガイドラインを活用して統一した指導が出来るよう確認する。 ・長期欠席生徒に対して、情報共有を図り組織的に対応していく。 	
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・進路に関する講話やガイダンスについて多く行われたが、実施方法を工夫し、より効果的にできる見直しが必要である。 ・代ゼミサテラインに加え、スタディサプリの活用で、より多くの成果が見られた。 	○生徒の可能性を伸ばし、不安なく進路選択ができるようバックアップが必要であるのご助言をいただいた。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の自己理解を推進し、早い段階から進路を意識させる活動を実施する。 ・学校全体で生徒の進路実現をバックアップする体制を作る。 	
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ以前の学校行事運営に近づけることができた。 ・暑さが長引き、熱中症対策が課題である。 	○自粛明けの活動について、部活その他の活動について活発に取り組めるよう工夫する等ご助言をいただいた。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・行事の内容や日程を検討し、安全かつ充実したものになるよう計画する。 ・生徒の自主性を活かした活動となるようなサポート体制を図る。 	
組織運営	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会の発足により保護者や地域との繋がりを強化した。 ・業務の平準化が図られず、一部に負担が偏る傾向があった。 	○新しい課題が常に発生する現代において、組織的対応は必須なため、より強固な組織となるようご助言をいただいた。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・分掌再編を行い、組織的に素早い課題解決ができる編成とする。 ・他年次や分掌との連携を進め、課題解決に必要な方策を共有する。 	
公表方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページ、学校運営協議会 	